

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和6年3月28日（木）

2 確認箇所

第二セシウム吸着装置（SARRY）（高温焼却炉建屋）

3 確認項目

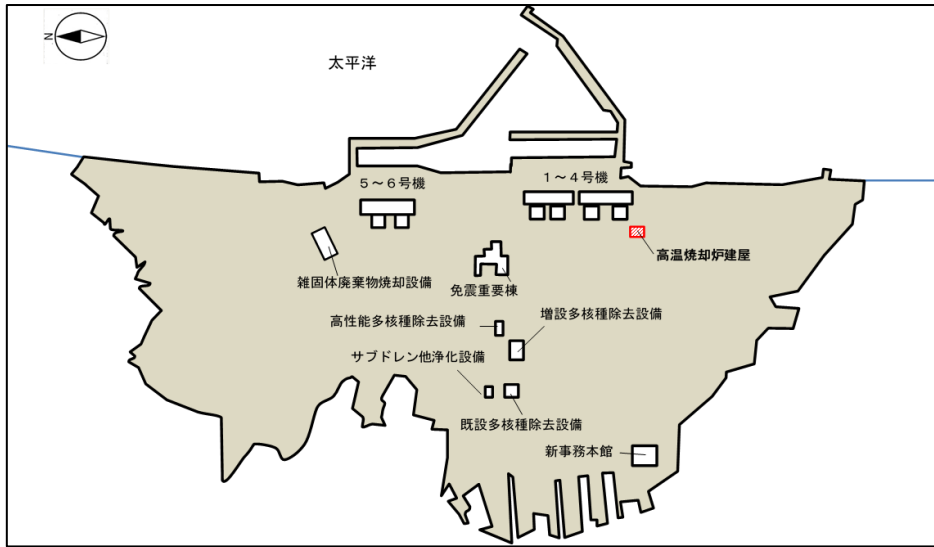
第二セシウム吸着装置（SARRY）の現況

4 確認結果の概要

福島第一原子力発電所では、原子炉の内部に残る、溶けて固まった燃料（燃料デブリ）を冷却するために水をかけ続けていること、雨水や地下水が原子炉建屋内に流入することなどにより、高い濃度の放射性物質を含んだ汚染水が発生しており、発生した汚染水に対しては、そのリスクを下げるために、いくつかの設備を使用して放射性物質を除去する浄化処理が行われている。

今回は汚染水から放射性セシウム、ストロンチウムを除去するために使用している第二セシウム吸着装置（以下「SARRY」という。）の状況を確認するとともに、平成30年2月に異音と火花が発生したSARRYの低圧変圧器の状況を確認した。（図1）（前回確認：[平成30年7月11日](#)）

- ・ SARRYは、高温焼却炉建屋（HTI建屋）内の南東側に設置され、A系とB系に分かれており、それぞれの系統で吸着塔が5基ずつ設置されていた。（写真1）
- ・ 吸着塔の周辺には、空間線量率を測定する線量計が設置されていた。また、目視で確認した範囲で、SARRYからの漏えい等の異常は確認されなかった。（写真2）
- ・ 平成30年に異常が発生した低圧変圧器は、使用が停止されており、そのまま残置されていた。（写真3）
- ・ 新たに設置した低圧変圧器は、異常が発生した低圧変圧器の近傍に設置されており、周囲が鋼製のカバーで覆われていた。（写真4）
- ・ 東京電力によれば、平成30年当時、異常が発生した低圧変圧器と同型の変圧器を他に1台使用していたが、本件を受けて併せて使用を停止したとのことであった。
- ・ 2月7日に放射性物質を含む水の漏えいがあったベントロの下部は、汚染された土砂等の回収が完了したため、再舗装され、上に鉄板が敷かれていた。（写真5）



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



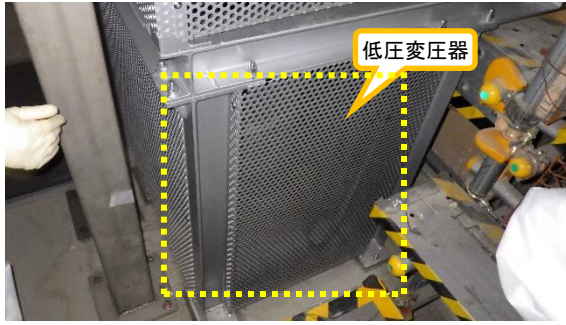
(写真1)
SARRY設備の状況
左側はA系で、右側がB系



(写真2)
空間線量率の表示の状況



(写真3)
平成30年当時異常が発生した低圧
変圧器



(写真4)
新たに設置した低圧変圧器の状況



(写真5)
HT I 建屋東側のベント口及びその
周辺の状況

- 5 プラント関連パラメータ確認
各パラメータについて、異常な値は確認されなかった。